

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503080		
法人名	社会福祉法人 常新会		
事業所名	グループホーム よろこび		
所在地	福山市御幸町下岩成 646-1		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの為、外へ出掛ける事が出来ておらず、身体を動かす事が少ない為、よろこび独自の体操を考え、DVDを作製し、昼食と夕食前に体操を行なっている。家事やアクティビティなど、個々に合った出来る事を行なってもらいながら、よろこびで過ごして頂いている。
また、誕生日や季節行事の時には、食事の内容を入居者に聞いたり、華やかにすることで、楽しんでもらったり喜んで頂けるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和5年3月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓からは明るい日差しが差し込み、田畑をのんびりと眺めることができ、四季を感じる事が出来る。事業所の優れている点は、①各部署の理念を作成し、チーム目標・利用者のプランに理念を組み込み、日々の実践につなげていること。②勉強会などの開催により、職員のスキルアップがはかられ、利用者に充実したケアが提供できていること。③書類の整備が充実しており、取り組む目標が毎日掲げられており、日々の振り返りと見直しが出来ていること。④利用者の状態把握に努め、個人の思いを尊重し、その人に適したレクリエーション活動などのアクティビティが充実することで、利用者の残存能力を引き出し、喜び、自信、楽しみとなるような支援を行っている。⑤職員が管理者等にも意見や提案がしやすい職場で、仕事にやりがいや働きやすさを感じていることが挙げられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に、部署の理念を作成し、入居者や家族の思いを面会に来られた時などに傾聴して、実践につなげている。	理念を職員の目に留まる場所に掲示し共有している。ミーティングで話し合い、各部署の理念を作成し、チーム目標・利用者のプランに組み込み、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、町内会の行事には参加出来ない。 また、事業所の祭りも行なえていない。	町内会に加入し、職員が清掃活動に参加している。交流の場として、地域住民が100円カフェを開催しており、問い合わせ等の連絡や交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、職場体験等の実習の受け入れを行なっていない。 また、地域の方々に向けての関りが行なえていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、コロナ禍の為、行なえていないが、認知症カフェにて地域の方へ、再開に備えて配布資料を準備している。	コロナ禍のため、運営推進会議は開催が困難だった。平成大学の認知症カフェにオンラインで参加し、グループホームの概要等を説明する機会を得て、地域住民と情報を共有することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で事故があった時の報告、事業所で困難事例があった時、コロナの状況等の情報を得ている。	所長が窓口となり、コロナウイルス感染対策・認知症カフェの情報・困難事例の相談等で、包括や市の担当者と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年6月と12月に、勉強会を行ったり、各部署のミーティングで話をし、職員共有を行なっている。身体拘束委員で、3ヵ月毎に委員会を開き、年に1～2回主任会議で報告を行なっている。	年2回の勉強会や朝の勉強会を開催し、身体拘束をしないケアについて情報を共有している。アンケートを行い、職員の理解度を把握し声かけを行っている。帰宅願望のある人には散歩をしたり、家族の声を聴いて落ち着く人には電話をかける等対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修は、新型コロナウイルスの状況により、判断し研修できる場合には行なっている。また、リモートを使った研修も取り入れている。事業所内の勉強会や動画を見ながら学び、虐待防止に対して、職員間で共通意識を持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援や成年後見人制度について、勉強会等を行ない学ぶ機会を設けている。 現在、入居者1人が成年後見人制度を利用しており、後見人の方と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書類に添って説明し、改定があった時も、その都度説明し、納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理箱を設置し、管理者、職員間で共有し、対策を講じている。 直接、ご意見を下さる家族もあり、その都度、話し合い、対応している。	利用者からは日々の関わりの中で、家族からは電話や面会などで意見を聴いている。把握した意見や要望には出来る範囲で対応をしている。利用者からは食事や運動への要望があり行事等の中で反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティング等で出た意見、提案は、主任会議の中で検討している。	各ユニットでの会議や職員面談の機会をつくり職員の意見を聴いている。2か月毎にアクティビティの担当者が替わり、職員の意見を反映し、利用者の希望に沿った誕生会や行事を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員の面談を行ない、業務に対する考え方、目標等を把握し、働きやすい職場環境作りや、条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、能力開発プログラムを通して、実技兼、知識をつけてもらえるよう実施している。 法人外の講習会等への参加も情報を提供し促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、同業者と交流を図ったり、平成大学の認知症カフェにオンラインにて参加し、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人(又は家族)不安や要望等を聞いたり、ライフメイトという言葉通り、一緒に生活動作を行なう上で、協力関係を築きながら、信頼し合えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等を伺い、サービスの内容を丁寧に説明し、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は、事前面談より得た思いや情報や、多方面からも情報や意見を収集しチームで検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性を尊重しながら日々の生活をする中で、頼り頼られながら信頼し合える家族のような関係を築く事を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、月に一度、行事や普段の様子をのせた通信を送ったり、リモート面会や電話等から、本人との交流の機会を大切にできるよう支援を行なっている。 また、変化のあった時には、連絡し相談しながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、人に合う事や外出が出来ないが、思い出の写真や馴染みのある歌や趣味の作品を通して会話を行なっている。	利用者の近況報告を載せた通信と笑顔の写真を郵送している。コロナウイルスの感染状況に応じて家族との窓越し面会や面会リモート面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者全員で、体操を行なったり、アクトや会話の場を設け、楽しく過ごせるよう努めている。 入居者同士、助け合われている場面もよく見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方から情報を頂き、それを職員で共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部屋担当者が積極的に本人の思いを聞き、普段の会話や行動、または職員、家族を含め相談し意向を検討している。	お茶を飲んでいる時や入浴時等ゆったりしている時に思いや意向を聴き、把握に努めている。把握した情報は連絡ノートで共有している。困難な場合は、家族からこれまでの暮らし等を聴き取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの話や本人との普段の会話から情報を集め生活歴など把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録して、主治医の話や意見を聞きながら職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に、カンファレンスを行ない、3ヵ月毎に、介護計画の見直しを行なっている。家族とも相談して検討している。	利用者と家族の思いを把握し、計画作成者と担当職員が話し合い、利用者一人ひとりに適した計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に行い、状態変化に応じてその都度柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、対応や反応など、24時間、個別記録に記入し、担当が評価したものをチーム皆で共有し、介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ではあるが、同法人のリハビリ部門より、生活リハビリへの助言や往診の医師への身体の相談を通して、多方面よりアドバイスを頂き柔軟な支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と主治医、連絡を取り説明、報告を行なっている。 急変時は、主治医、家族に連絡している。 また主治医に指示を仰ぎ、必要な時は主治医より家族に直接話をしてもらっている。	入居時に希望を聴き、かかりつけ医を決めている。2週間に1回の往診があり、夜間・緊急時は主治医に連絡・相談が可能である。必要時には歯科の往診も受けられる。他科受診は家族対応だが、必要時は職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師へ入居者の様子を報告し、適切な対応、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書を発行し、情報交換に努めます。 また、ご本人の状態などの確認に努め、入院中や退院時には、必要な事を質問し詳しく聞く様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望を伺い、医師、職員は、家族が納得のいく最期を迎えられるよう努めている。	入居時に「重度化した場合の指針」について説明し理解を得ている。利用者の状態に応じて、その都度、今後の方針の確認を行い、医師や看護師と連携を図りチームで支援している。看取り時には、面会や宿泊などにも対応し、家族の意向を尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間それぞれの急変時マニュアルを職員全員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した消防訓練や、災害訓練を、年に2回行い、毎年5月と11月に勉強会や消防訓練や災害訓練を行なっている。 水と食料のストックを置いている。	デイサービスと合同で、年2回の火災避難・災害訓練を実施している。図上訓練でのシュミレーションや勉強会の開催により、職員の防災意識や災害対策の理解が深められるよう努めている。	消防署の立ち合いにより避難の方法や実際を理解する機会を得たり、今後の充実したBCP策定に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いに声かけを行ない、プライバシーを損ねないよう対応している。	入社時には個人情報保護や接遇について研修を受けている。利用者の生活歴を大切にするとともに、思いを傾聴し、家族に接するよう優しく支援するよう心掛けている。一人ひとりに合わせた声掛けや言葉遣いに留意すると共に、プライバシーを損ねないよう対応を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先し希望に耳を傾け支援に努めている。 入居者の、その場の状況に合わせてられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先した生活を送ってもらえるよう支援し、出来る限り介助を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望される服や好みの衣類を身につけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った出来る事をして頂いて、本人が出来た作業をしてもらっている。 食べやすい形態にしている。	中庭で野菜を栽培・収穫したり、クリスマスや誕生会などの行事食を手作りで提供している。利用者の希望でメニューを決めたり、一緒におやつを作るなど食事を楽しむ支援をしている。利用者は、食事の下ごしらえ・配膳・下膳・茶碗洗いなど出来る事を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューや量、水分など、一人ひとり記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、介助のいない方は、皆で舌磨き、口腔ケアを行ない、出来ない方は介助を行なっている。 必要な時は、歯科往診を頼んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った下着(布、紙パンツ、パッド等)を使用し、適宜、トイレ誘導して、トイレでの排尿、パッド使用量の減少に努めている。	ライフチャートで排泄間隔を把握すると共に、仕草や行動からサインを察知し、声かけ・誘導を行いトイレでの排泄を促している。夜間は個々の状態に応じてポータブルトイレを使用するなど対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	しっかり水分を摂取してもらえよう、個々のタイミングや飲みやすい物を提供するようにしている。 午前、午後と体操も取り入れている。 排便が難しい方に対して、便座に座り足を台の上に乗せ前傾姿勢をとり、便がでやすくなるよう体勢など工夫するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の気分が乗らない時は、無理せず、タイミングをずらしたり、体調に合わせて支援している。 寝たきりの方には清拭や洗髪が出来るように洗髪器で支援している。	利用者の要望に添えるよう、週2～3回午前・午後に入浴の時間を設けている。浴槽に入れない人は足浴を行ったり、柚子を浴槽に入れ季節感を味わったり、歌をうたうなど入浴を楽しむ支援をしている。入浴を嫌がる人には声掛けの工夫や職員・時間を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣、生活リズムや、その日の体調などに合わせて、午睡の時間を取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤ファイルを使用し、薬の内容、用法など、職員で共有している。 体調に変化があれば、主治医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやりたい事や能力が活かせる家事や体操を、カラオケ、アクトなどで楽しみ充実した時間を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出が出来ていない。 ユーチューブで、桜や紅葉、全国の綺麗な景色などを観たり、室内で季節ごとのイベント等行なっている。	コロナウイルス感染状況を見ながら、花見や紅葉狩りのためドライブへ出かけ車中から景色を眺める機会を作っている。日頃はベランダでの日光浴やゴミ捨て・野菜の水やりをしたり、戸外を散歩し気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かり、金庫にて保管している。コロナ禍ということもあり、外出や買い物に出掛けられないが、本人希望する物がある時は職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望のある時は、電話かけ、直接話をしてもらっている。家族が施設に来院された際は、オンライン面会を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた壁飾りを、皆と一緒に手作りし飾っている。	リビングには明るい陽射しが差し込み、季節に応じた利用者の作品などが飾られている。利用者が景色を眺めたり、思い思いに過ごせるよう椅子が設置されている。また、筋力維持のために、運動器具を設置し下肢の筋力を高めたり、30分から1時間程度の体操など活動のための時間を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	圧迫感なく、ゆっくり過ごせるようにテーブルを配置している。 廊下にソファを配置し、好きな時に、くつろいでもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思い出深い物、家族の写真などを居室に置いて安心して過ごせるように心掛けている。	自宅で使い慣れた家具や品々を持参され、個々の状態に応じて、配置されている。家族の写真や手紙・作成した作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	それぞれの希望や能力を活かせる家事やアクト、体操などを行なえるよう支援している。		